

奥利根・宝台樹スキー場～武尊山 山スキー

T野

メンバー：T野・I崎・N井・A原

2026年3月1日

ちょっと骨のある山スキーがしたかった。「骨のある」＝「滑り重視ではなく登頂の充実感重視」と言い換えても良い。ただ、そうはいつでも還暦をとうに過ぎた僕にとってなのでたかだか知れている。

9年前、当時まだバリバリ元気だった銀座3人娘を引き連れて楽しくピークハントと北面のパウダーを満喫したルート。その3人も今まだ元気に山スキーを楽しんでいるのは1人になってしまっただけの寂しさはあるのだが……。今回は久しぶりにあそこに行こう！！

公募すると「俺、そのルート2回敗退してるんだよな」とI崎さんが3度目の正直を求めてエントリーしてきた。ヤッター！！これで前夜の宿が確保できた！！さらに、銀座ではまだ若く体力もあるN井さんも「少し仕事も落ち着きましたので……」とエントリー。そして先程の唯一元気な1人のA原さん、彼女は僕とともに今回の計画発起人のひとりだ。このメンツだと、皆、山スキー慣れして、年齢の割には元気なので、行動が早く、写真を撮っているとあっという間において行かれてしまう。今の僕にとっては本気で歩かないと付いて行けないメンバー構成である。頑張らねば……。

いつものように、前夜は昭和村のI崎邸。お世話になっています。毎度毎度で奥さん良く文句言わないよなあ～。明日の天気は？ と確認すると文句なしに晴れだが天クラはC、どうやら風が強いらしい。最新の天クラを確認したI崎さんの「武尊山2000m付近で風速20mだっで！！」の言葉に何となくモチベーションダウン。まあ、ここまで来たらとりあえず現地まで行ってみて考えよう。

3/1 宝台樹スキー場～武尊山



遅くとも7時には歩き出したかったので真面目に4:30起床。結構車が混んでいてスキー場まで思ったより時間がかかり、登山口を出発できたのが6:55。

■写真名倉沢を詰めて尾根に出た辺り。

名倉沢を詰めていくが、前回よりも雪が少なく沢全体がウネウネしていてルーファイが難しい。前回、スキー場の積雪が260cmだったのに対し、今回は170cmだから沢が埋まり切っていない

のだろう。さらに、ここ数日の高温で雪が解け、それが明け方の冷え込みで凍り付くので、陽が当たらない北面はガリガリ君優勢で歩きにくいことこの上ない。ただ、天気は素晴らしく、懸念していた風もほとんど気にならない。つまり、雪質以外は絶好の登山日和である。



名倉沢は意外に長かった。地図を見ればわかるが、全行程の約半分くらいの距離がある。さらに、詰め急登は、今日の雪質だとクトーを付けていても油断しているとスリップしてしまい、なかなか厳しい登高だ。約2時間半を要してようやく尾根に這い上がる。

1692m峰付近まで尾根を歩いて、ここで一度シールを外して手小屋沢小屋付近にトラバース気味に滑り降りるが、ここもガリガリ、転倒すると滑落の危険があり慎重に滑る。降り立ったところは手小屋沢小屋のある辺り、雪に埋まっているのか小屋の所在はわからなかった。この辺り、穏やかで良いところだ。まずは前半戦終了で一休み。

■写真上 美しいブナの尾根

■写真中 今日は結構冷え込んだみたいだ。

■写真下 手小屋沢上部はカリンコリンで板を脱ぐ。

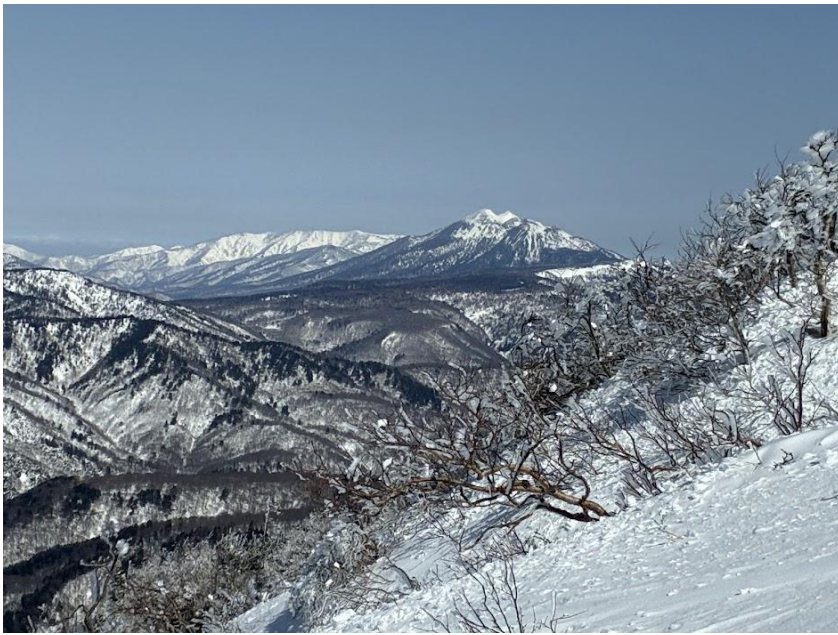


後半戦は手小屋沢沿いにルートを探る。ここも雪が少ないため埋まり切っておらず沢床は狭く登りにくい。歩きやすいところを探しながら歩くと、やがて我々は左岸の尾根を登るようになる。ある程度登って付近を見渡すと、右岸の方が登りやすそうに見えたのだが、その時には沢が深くなり過ぎて、横断が困難な状況になっていた。次回があるなら手白沢小屋付近から沢の右岸にルートを求めた方が良いかもしれない。

尾根は稜線近くなると再びガリガリ君が優勢となり、クトーを使用しても不安な硬さと傾斜になってくる。I崎さん以外は、最後の詰めは板を担いでキックステップで登る。細工した特別仕様のクトーを持つI崎さんは何とかシ



ールで登って来た。さすがである。



稜線に這い上がれば山頂まであと少しなのだが、ガリガリボコボコでスキーでは歩きにくい。山頂には12:20着。川場スキー場から登ってきた登山者が山頂から溢れんばかりにいて、今までの静寂さが嘘のようである。

景色は360度見えない山はない！！尾瀬の燧ヶ岳から会津駒周辺の稜線、そして至仏山から奥利根国境の山脈、さらに朝日岳から白門門、谷川連峰の稜線、近場では川場スキー場方面にある剣が峰の鋭鋒がひときわ目を引く。とにかく見事な雪山の連なりである。天クラCの予報は良い方にはずれ、山頂も穏やかで、のんびりと景色を楽しむことができた。



■写真上 燧ヶ岳と会津駒周辺の山。

■写真中 谷川岳と朝日岳(?)かな。

■写真下 武尊山山頂！！

充分堪能したらいよいよ滑降である。帰路は手白沢の右岸の尾根から滑り出す。最初は広くて滑りやすいが、沢に降りるには数々の急斜面を横滑りで降りていくことになる。でもここは、おそらくルートミス、きつともっと快適に降りられるルートはあると思う。なんとか沢に降り立ち、主に右岸を滑って行く。斜面は気持ち良さそうのだが、雪質はヒヤッホー！！とは程遠くどちらかといえば修行に近い。しかし、これも山スキーである。楽しいとか快適とかではなく、どんな雪にも対応してこそ真の山スキーヤーなのだ。とはいえ……ちょっとやせ我慢も





入っているのは事実である。

■写真 下山途中の尾根から
武尊山山頂を望む。

それでもやはりスキーは魔法の翼だ。なんだかんだ言っても登りとは比べ物にならないくらい早い。手白沢小屋付近まで滑りここで一休み。シールを貼って尾根に向かって標高差50mほど登り返す。1690m付近で再びシールを剥がして滑降開始。ここも斜面と雰囲気は良いのだが雪質は相変わらず。最後の方はモナカちゃんま

で出現して正真正銘の修行となったが車道のような所に出ればそれも終了。あとは自動運転で車デポ地まではひと滑りであった。

何度も言うが斜面と雰囲気は良いので雪質がいい時に、ぜひもう一度訪れてみたいと思う。来年の2月くらいかな。東京から近くて、登り応えもあって、条件が良ければ滑りも楽しいルートだ。容易に登れるルートが他にあるからか、このルートは人も少なく山頂付近以外は静寂に包まれた森を楽しむことができる好ルートでもある。I崎さんが同行すれば快適な寝場所も確保できる。それが叶わぬ場合は、沼田健康ランドがリーズナブルでお薦めだ。

今回、滑りは修行だったし、十分に疲れたがなぜかこのルートを嫌いにはなれない自分がある。多少痛めつけられてもそれが充実感として残り、しばらくすると、また再訪したくなるから不思議である。それが「登山」という遊びの最大の魅力なのかもしれないね。

■コースタイム

登山口(6:55)～(9:00)尾根(9:10)～(10:05)手小屋沢小屋(10:20)～(12:00)武尊山(12:45)～(13:16)手小屋沢小屋(13:40)～(15:00)登山口